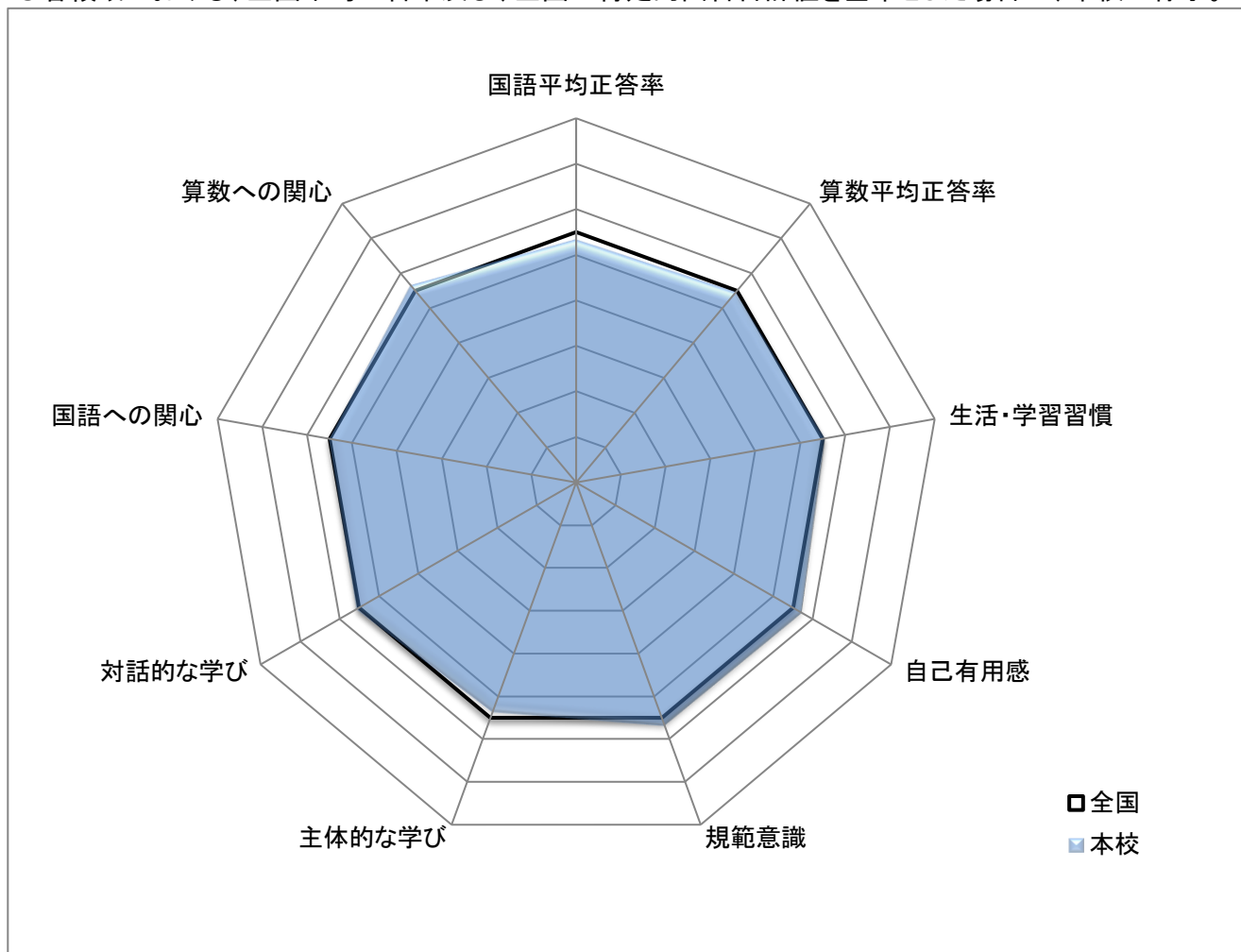


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○「規範意識」「自己有用感」や学習への関心が、学習の正答率に結び付いていない。
 ○「主体的な学び」が全国平均を下回っているため、特に授業改善が必要な部分である。
 ○国語は、「読むこと」において都より5.9ポイント下回る結果となっていることが、正答率の低さにつながっていると考えられる。
 ○算数では、記述式の問題において全国平均との差が5.8ポイントと大きくなっていることが、正答率の低さにつながっていると考えられる。

《授業改善のポイント》

○全国平均を下回っている「主体的な学び」を様々な教科や活動に取り入れていく。
 ○読む力や書く力を伸ばしていき、他教科の学力向上にもつなげていく。日頃から読書に親しみ、読書科における探究活動を進めていくことで、主体的な学びにつなげたい。各教科で自分の考えを書いて表現したり、聞いたことをまとめたりするなどの記述して表現する活動を積極的に取り入れる必要がある。
 ○算数では、日常的に算数的活動を取り入れ、算数への興味・関心を育てるとともに、基礎基本の時間やICTを活用した学習を通して反復学習をすることで、基礎力の定着を図っていく。習熟度に応じた丁寧な指導を行っていき、さらに算数への関心を高めていく。

《チャートの特徴》

○全体的に、ほぼ全国平均と同じような結果となっている。
 ○「規範意識」「自己有用感」、「算数への関心」が、全国平均を上回っている。
 ○「生活・学習習慣」「対話的な学び」は、全国平均をやや上回っている。
 ○「国語への関心」は、全国平均とほぼ同じであった。
 ○「主体的な学び」は、全国平均を下回る結果になった。
 ○国語と算数の正答率は、全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

○「篠五小家庭ルール」や「SNS篠五小家庭ルール」を活用しながら、生活習慣を整えられるよう家庭にも協力を促していく。また、ICTを活用した家庭学習を推進していくために、家庭の協力への働き掛けを継続していく。